

「食と緑の科学」執筆要領

平成18年9月28日制定

平成19年3月31日改正

平成21年4月 1日改正

平成24年3月 1日改正

平成28年8月 1日改正

令和 3年8月 1日改正

1. 原稿の作成

原稿は原則としてパーソナルコンピュータのワードプロセッサソフトを用いて作成する。用紙はA4版とし、縦長に置き、上下左右に各3cm程度の余白を設け、11ポイント程度の文字の大きさを横書きし、行間2行となるようにしたものを出稿すること。

電子メールによる投稿は、ワードプロセッサソフトによる原稿をPDF形式で保存したもののみ認める。ファイルサイズは5MB以下とし、表紙、本文、図表の全てを一つのファイルに納めること。

2. 原稿の構成

論文、総説ともに以下の構成に従う。

① [和文の場合]: 和文表題, 和文執筆者名, 和文所属, 英文表題, 英文執筆者名, 英文所属, 英文抄録, KEYWORDS (within 5 words), キーワード (5語以内), 本文, 和文抄録, 謝辞, 補注, 引用文献. (謝辞は本文に含めてもよい)

② [英文の場合]: 英文表題, 英文執筆者名, 英文所属, 英文抄録, KEYWORDS (within 5 words), 本文, 謝辞, 補注, 引用文献.

所属は大学名と研究院名又は研究科名に相当するものを記載すること。

【例】

千葉大学大学院園芸学研究院

千葉大学環境健康フィールド科学センター

Graduate School of Horticulture, Chiba University

Center for Environment, Health and Field Sciences, Chiba University

3. 和文原稿は現代かなづかいとし、漢字は原則として常用漢字の範囲にとどめること。

学術用語は文部科学省編学術用語集、各学会の用語集に準拠し、未制定の用語については簡単な解説を付した上で、適当な用語を選択すること。

特殊書体はイタリックのみを使用し、下の例に従って原稿中に朱書で指定する

こと.

【例】活字の種類 指定記号 刷り上がり

イタリック in vitro *in vitro*

4. 原稿の1枚目は表紙とし、記事の区分を右上端に〔論文〕のように朱書し、和文、英文に関わらず、表紙の上半分に、和文表題、和文執筆者名、和文所属、英文標題、英文執筆者名、英文所属を記載すること。

下半分に本文、図、表の枚数、別刷の予定作成数を記載すること。

5. 原稿2枚目には英文抄録、KEYWORDS(within 5 words)、キーワード(5語以内：和文の場合のみ)、代表著者(corresponding author)と連絡先(氏名、所属、電子メールアドレス)を記載すること。

6. 原稿3枚目からを本文とすること。すべての原稿の欄外に通し番号で行番号を付すこと。

7. 章・節・項の見出し

本文に使用する章・節・項には数字や記号は付さず、見出しのみとし、フォントはゴシック体とする。

主見出し(章)はセンタリングにて配置し、副見出し(節)は本文先頭行に合わせて配置する。それ以下の小見出し(項)は使用しないことが望ましいが、使用する場合は左一文字(英文の場合全角)あけで配置する。英文見出しの場合は、先頭文字および固有名詞の先頭文字のみ大文字とする(Materials and methods; Changes in vegetation landscape from Chelyabinsk to the Arkaim)。

例

はじめに<章：センタリング，上下1行あけ>

有機水稻栽培では・・・・・・・・・・

材料および方法<章：センタリング，上下1行あけ>

土壌<節：左寄せ，上一行あけ>

2005年5月に・・・・・・・・・・

培養準備<節：左寄せ，上1行あけ>

2005年秋に・・・・・・・・・・

培養液の調整<項：左一文字あけ，上下はあけない>

湿潤土壌12.5 g

8. 引用文献

引用文献は本文中に引用したものすべてを著者のアルファベット順に記載し、本文に引用しない文献は記載しない。したがって、参考文献とはしない。

本文中の引用は次のようにする。

.異なる分布地からの移入が期待される分類群である（水野ほか 2001）。竹崎ほか（2010）は.を明らかにした。
<コンマは使わず半角スペースあけとする。2名までは 水野・竹崎 2009 ; Mizuno and Takezaki 2009. 3名以上の場合は木佐貫ほか1992; Sakio et al. 2002>

表記は執筆者名のアルファベット順に並べ、下記項目の順に記載すること：
執筆者名（西暦年次）表題または書名. 掲載誌 巻次（号次）：ページ。

例

Keeley, J. E. (1987) Role of fire in seed germination of woody taxa in California Chaparral. *Ecology* 68 : 434-443.

小林達治（1972）光合成細菌による廃液の処理とその資源化(2). *土肥誌* 43 : 123-126.

郡場 寛（1972）植物生理生態 第14 版. 養賢堂, 東京.

Krebs, C. J. (1978) *Ecology: The experimental analysis of distribution and abundance* 2nd ed. Harper & Row Publishers, New York.

森 洋輔・宮本 太・平岡正三郎・平岡照代（2009）神奈川県東京農業大学厚木キャンパスの蘚苔類. *東京農業大学農学集報* 54(2) : 79-85.

沼田 真（1967）植物的環境の解析と評価. 自然：生態学的研究（森下正明・吉良竜夫編）. 中央公論社, 東京, 163-187.

Parker, V. T., Simpson, R. L. and Leck, M. A. (1989) Pattern and process in the dynamics of seed banks. *Ecology of soil seed banks* (Leck, M. A., Parker, V. T. and Simpson, R. L. eds.). Academic Press, San Diego, 367-384.

ピールー, E. C. (1969) 数理生態学（南雲仁一監訳, 合田周平・藤村貞夫訳 1974）. 産業図書, 東京.

Rommert, H. (1980) *Ecology: A textbook* (trans. Biederman-Thorson, M. A. 1980). Springer-Verlag, Berlin.

Stoyke, G., Egger, K. N. and Currah, R. S. (1992) Characterization of a sterile endophytic fungi from the mycorrhizae of subalpine plants. *Can. J. Bot.* 70 : 2009-2016.

なお、引用文献が電子媒体など冊子体以外の場合には、以下例示のように媒体表示、入手先、確認日付を付すこと。

例

Mabon, S. A., Misteli, T. (2005) Differential recruitment of pre-mRNA splicing factors to alternatively spliced transcripts in vivo. PLoS Biol. 3(11) : e374, doi:10.1371/journal.pbio.0030374. <http://biology.plosjournals.org/perlserv/?request=get-document&doi=10.1371/journal.pbio.0030374>, (cited 2008-03-09)

Web上に存在するものには(online), (Web)等の媒体表示は不要であるが, doiがあれば必ず記載すること. また, (CDROM), (DVD)などはその旨明記する.

doi :Digital Object Identifierは識別子として論文等に付されたユニークな記号で, Web上のリンク切れに対応するためDOI財団により管理されている.

(URLが変更されても<http://dx.doi.org/>より検索ができる)

9. 脚注は本文の該当部分の右肩に, 1), 2) n) のように記載すること.

10. 図表は原則としてグラフィックエディタ, 表計算ソフト等を用いて作成し, A 4用紙に1図表1枚で出力したものを提出すること. スチール写真等の電子的に保存されていない図表を使用する場合は, A 4用紙で可能な限り鮮明な状態のものを提出すること. 図表は, 解像度等を考慮して作成すること. 提出する図表には, 刷り上がりにおける大きさを指定すること. 図表の刷り上がりにおける大きさは1ページ(見開き片面)を最大とする. 編集の都合上, 「食と緑の科学」編集委員会が刷り上がりにおける図表の大きさを変更することがある.

11. 図表の各用紙の上端に, 図表の番号と執筆者名を記載すること. また, 本文等の各用紙と同様の位置に, 本文等から続く通し番号でページ番号を記載すること.

各図表について, 図表番号, 図表のタイトル及び必要であれば説明を, その順で, 別紙にまとめて記載すること.

12. 本文中における図表の参照については, 和文の場合は「図8」, 「表8」のように, 英文の場合は [Fig. 8], [Table 9] のようにし, 図表を挿入するおよその位置を原稿の右欄外に, 「図8」, [Fig. 8]のように朱書する.

13. 「食と緑の科学」編集委員会から投稿原稿を掲載する旨の通知を受けた執筆者は, 査読時に受けた指摘事項等を反映した原稿に添えて, 電子的に保存した当該原稿を提出すること.

ただし、やむをえない事情により手書きで執筆した場合は、この限りではない。スチール写真等の電子的に保存されていない図表については、原本を提出すること。提出された原稿等は返却しない。

14. 受理可能な記録媒体、ファイル形式等は別途通知するものに限る。それ以外のものを提出しなければならない事情がある場合には、「食と緑の科学」編集委員会に照会すること。図表は本文等とは別ファイルとし、1図表1ファイルとすること。

15. 英文原稿の提出

英文にて執筆した原稿は、事前にネイティブチェックを行った後提出すること。また、そのことについて証明を付すことが望ましい。

附則

この要領は平成19年1月1日から施行する。

附則

この要領は平成19年4月1日から施行する。

附則

この要領は平成21年4月1日から施行する。

附則

この要領は平成24年3月1日から施行する。

附則

この要領は平成28年8月1日から施行する。

附則

この要領は令和3年8月1日改正から施行する。